開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5113 日本の文化と文学4			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	水曜3限				
教室	J301教室				
代表教員	田村 景子				
担当教員	田村 景子				
テーマと到達目標	副題：今、ここにある恐怖から、新生への希望へ 凝り固まった苛烈な状況に対して、リアルを潜った想像力だけが現状に変更をもたらすときがある。そして多くのフィクションにおいて、あたりまえの常識を踏み破り新状況を強引にまねきよせる主体として、怪物が跳梁跋扈してきた。パブル崩壊とともに始まったJホラー以降の奔放な想像力、小説・演劇・マンガ・アニメ・映画などをとおして、2025年のリアルな恐怖と対峙しよう。				
概要	労働状況の悪化、格差と貧困、世界を覆う新しい戦争、戦争ができる社会への整備、3・11以降の日々を経て、わたしたちはコロナ禍のただ中で戦争と向き合う……日常が見慣れぬものとなり続ける現実の中で、文学と文化は何を描いてきたのか。リアルな社会の「壊れ」と結びついた人間一人ひとりの心身の「壊れ」の物語、もしくは「壊れ」そのものとして躍動する怪物たちが、実は究極の希望を差し出し続けている様を、「恐怖」と「哄笑」の概念とともに学ぶ。授業は講義形式の予定だが、受講人数によってはグループ討議や発表もとりいれる。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	ガイドダンス——風船がパチンとはじけるように				対面授業
第2回	「失われた10年」にJホラーの産声が響く——小野不由美『魔性の子』				対面授業
第3回	震災と戦争——貴志祐介『十三番目の人格ISOLA』				対面授業
第4回	リアルが支える経済ホラー——貴志祐介『黒い家』と宮部みゆき『火車』				対面授業
第5回	すっごく、こわい——岩井志麻子『ぼっけえ、きょうてえ』の柔らかな闇				対面授業
第6回	生きづらい!!——小野不由美『屍鬼』が差し出す現状変革				対面授業
第7回	心の「壊れ」と社会的な「壊れ」——『バトル・ロワイアル』と『自殺サークル』				対面授業
第8回	怪物というただひとつの希望——桜庭一樹『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』				対面授業
第9回	就活は怖いですか?——朝井リョウ『何者』から				対面授業
第10回	「ハケンの品格」を受け入れた時——ゼロ年代とテン年代の表象格差				対面授業
第11回	労働表象の、今——雨宮処凛『生きさせろ! 難民化する若者たち』以降				対面授業
第12回	東日本原発震災——いとうせいこう『想像ラジオ』と吉村萬巻『ポラード病』と……				対面授業
第13回	くりかえされてきた警告と、現れていた怪物——『ゴジラ』から『COPPELION』まで				対面授業
第14回	コロナ禍と戦争の現在へ				対面授業
第15回	今、ここにあるリアルな恐怖から、新生への希望へ				対面授業
成績評価の基準	受講態度50%、期末試験(教場レポートを予定)50%で評価し、2/3以上の出席がない場合は単位認定を行わない。なお受講態度は、授業への貢献度、授業中の小課題への取り組みなどを総合して判断する。				
履修にあたっての留意事項	「日本の文化と文学3」との継続履修が望ましい。扱う作品やトピックスは、授業の進行状況と受講者の関心に従って、随時変更する。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	オンライン授業に切り替わった場合、資料のダウンロードや印刷などは各自で行うこと。		
教科書	授業開始時に購入しておく必要はないが、関係の深い近著として『希望の怪物：現代サブカルと「生きづらさ」のイメージ』（田村景子、笠間書院、2023）がある。扱いは、授業中に述べる。	教科書(ISBN)	ISBN-13 : 978-4305709769
参考文献	授業中に指示する。ただし受講者には、Webシラバスに挙げた小説や映画やマンガをはじめ、積極的に広範な読書や映画鑑賞を期待したい。	参考文献(ISBN)	